United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

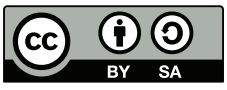
UNESCO
Global
Geoparks

ユネスコ 世界
ジオパーク
UNESCO Global Geoparks



地球遺産をたたえ、
持続可能な地域社会をつくろう

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ） 2016年発行
7, place de Fontenoy, 75352 Paris 07 SP, France
© UNESCO 2016



本出版物はクリエイティブコモンズライセンスのもとご利用いただけます。

表示-継承 3.0 非移植 ライセンス (http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/igo/)。
本出版物の内容を使用することをもって、使用者はユネスコのオープンアクセスリポジトリの利用規約（http://www.unesco.org/open-access/terms-use-ccbysa-en）に同意したものとみなします。

本出版物での表示や使用されている資料等は、国の法的地位、領域、市や地域の権限者、あるいはそれら国境や境界の画定に関し、ユネスコが意見を表示するものではありません。

本出版物での考えや意見は著者のものであり、必ずしもユネスコのものでなく、同機関は責任を負いません。

構成：ユネスコワークショップ
翻訳：日本ジオパークネットワーク国際連携ワーキンググループ
日本語版作成協力：伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局

SC-2015/WS/32 – CLD 2815.15

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

UNESCO
Global
Geoparks

ユネスコ
世界
ジオパーク

とは、国際的に地質学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発で一体となった考え方により管理された、飛び地になっていない単一の地理的エリアです。ユネスコ世界ジオパークは、地球資源を持続的に利用したり、気候変動の影響を緩和したり、自然災害の影響を軽減するといった、社会が直面している重要課題への意識と理解を高めるため、その地域のあらゆる自然・文化遺産と関連した地質遺産を利用しています。歴史と現代社会の中で、地域の地質遺産の重要性について意識を高めることにより、ユネスコ世界ジオパークは地域住民に自分たちの地域に対する誇りを与え、地域と地域住民の一体感を強めます。地域の地質資源が保護されている一方で、ジオツーリズムを通じて新たな収入源が生まれるので、革新的な地元企業や新しい雇用、質の高い研修コースの機会が活発に作り出されます。







ボトムアップアプローチ

ユネスコ世界ジオパークは、地域コミュニティを力づけ、地域の重要な地質プロセス・特徴・時代、地質に関連する歴史的テーマ、あるいは優れた地質の美しさを促進するという共通の目標を持って、密接なパートナーシップを発展させる機会を提供します。ユネスコ世界ジオパークは関係するあらゆる地方および地域の利害関係者と当該地における当局（例えば土地所有者、地域団体、観光事業者、先住民および地元の組織）を含めたボトムアッププロセスにより確立されます。このプロセスは地域社会の深い関わりや、長期的な公的・政治的支援が伴う地域の多様で強力なパートナーシップ、地域の地質遺産の展示および保護を行いながら、地域の全ての目標に合った包括的な戦略の開発が必要とされます。

ユネスコ世界ジオパークは地質だけ扱うのですか？

いいえ！　ユネスコ世界ジオパークは国際的に重要な地質遺産を示す必要がありますが、ユネスコ世界ジオパークの目的はその地質遺産とそのエリアのあらゆる自然遺産、文化遺産および無形遺産とのつながりを探り、発展させ、たたえることです。それは人間社会と私たち皆が暮らす地球とを改めてつなぎ合わせ、この地球とその46億年という長い歴史が私たちの生活や社会のあらゆる側面をいかに形作ってきたかをたたえることです。

ユネスコ世界ジオパークに法的な位置づけはありますか？

いいえ、ユネスコ世界ジオパークには法的な位置づけはありません。しかしユネスコ世界ジオパークで定義された地質遺産は、その土地・地方・地域または国の法の下で保護されていなければなりません。ユネスコ世界ジオパークの地位は、その活動がその土地・地方・地域または国の法に準拠しているユネスコ世界ジオパーク内のいかなる経済的活動にも、制限をくわえるものではありません。

いったんユネスコ世界ジオパークになったらずっとユネスコ世界ジオパークでいられるのですか？

いいえ、ユネスコ世界ジオパークは、再審査過程においてユネスコ世界ジオパークとしての機能と質があるか厳しく再確認が行われた後、4年間の認定期間が与えられます。再審査プロセスの一環として、再審査を受けるユネスコ世界ジオパークは経過報告書を作成しなければなりません。そして二人の審査員によってユネスコ世界ジオパークの質を再評価するための現地審査が実施されます。現地審査報告書に基づき、ユネスコ世界ジオパークが引き続き基準を満たしていれば、その地域はさらに4年間ユネスコ世界ジオパークでいられます（いわゆるグリーンカード）。その地域が基準を満たさない場合には管理運営団体は2年以内に適切な改善を求められます（いわゆるイエローカード）。ユネスコ世界ジオパークがイエローカードを受けてから２年以内に基準を満たさなければ、その地域はユネスコ世界ジオパークとしての地位を失うことになります（いわゆるレッドカード）。

ユネスコ世界ジオパーク、生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）および世界遺産：全体像

ユネスコ世界ジオパークは、ユネスコが進める他の２つの認定サイトである生物圏保存地域と世界遺産とともに私たちの遺産をたたえる一方で、それと同時に世界の文化、生物、地質の多様性を保全し、持続可能な経済開発を促進するという全体像を与えます。生物圏保存地域は生物と文化の多様性の調和の管理に重点がおかれ、世界遺産は顕著な普遍的価値を有する自然遺産と文化遺産の保護を推進し、ユネスコ世界ジオパークは地域社会と積極的に関わりながら地球のジオ多様性の保護の重要性とその意義を推進する場所として国際的に認識されます。ユネスコ世界ジオパーク申請地域に世界遺産や生物圏保存地域が含まれている場合、ユネスコ世界ジオパークはどのように世界遺産や生物圏保存地域から独立してブランド化され、また他の２つの認定サイトとの相乗効果によりどのように価値を付加できるかについて、明確な根拠と証拠を示さなければなりません。









4つの重要事項

国際的価値のある地質遺産

管理運営

可視性

ネットワーク活動



国際的価値のある地質遺産

ユネスコ世界ジオパークになるには、その地域は国際的価値のある地質遺産を有していなければなりません。これは「ユネスコ世界ジオパーク審査チーム」に属する科学の専門家が評価します。地域内のジオサイトにおいて実施された国際的査読済みの公表された研究にもとづいて、科学の専門家はジオサイトに国際的価値があるかどうかを決定するために国際的比較をし、評価を行っています。

管理運営

ユネスコ世界ジオパークは、国の法令の下で法的位置づけのある団体によって管理運営されています。この管理運営団体はエリア全体を扱うために適切な能力を持ち、全ての関連する地域、地区の関係者および公共機関を含めるべきです。ユネスコ世界ジオパークは全てのパートナーの承認のもと、地域住民の社会的および経済的ニーズに応え、彼らが住んでいる景観を保護し、彼らの文化的アイデンティティを保全する管理運営計画が必要です。この計画は、ユネスコ世界ジオパークのガバナンス、開発、コミュニケーション、保護、インフラストラクチャ、財政およびパートナーシップを組み込んで、包括的でなければなりません。

可視性

ユネスコ世界ジオパークは、主にジオツーリズムを通して持続可能な地域の経済的発展を促進します。地域のジオツーリズムを活性化させるためには、ユネスコ世界ジオパークが可視性を持つことが重要です。観光客も地域住民もユネスコ世界ジオパークに関する情報を見つけられるようでなければなりません。ユネスコ世界ジオパークは専用ウェブサイト、リーフレット、地域のジオサイトと他のサイトを結ぶ地域の詳細マップで情報を提供する必要があります。ユネスコ世界ジオパークはコーポレート・アイデンティティも持つべきです。

ネットワーク活動

ユネスコ世界ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークエリアに住む地域住民と協力するだけではなく、世界ジオパークネットワーク（GGN；詳しくは6ページをご覧ください）やユネスコ世界ジオパークの地域ネットワークを通じて他のユネスコ世界ジオパークと互いに学びあい、ネットワークとしてユネスコ世界ジオパークのブランドの質を向上するために協力することでもあります。ユネスコ世界ジオパークがGGNなどの国際的ネットワークの一員になるおもな理由は、国際的パートナーと共に活動することです。GGNの会員になることはユネスコ世界ジオパークに義務付けられています。ユネスコ世界ジオパークは、国境を越えて協力し合うことで異なるコミュニティ間の理解を深め、平和を築くことに貢献します。



コラム

世界ジオパークネットワーク

世界ジオパークネットワーク（GGN）の会員になることは、ユネスコ世界ジオパークの義務です。GGNは法人格を持った非営利団体で、年会費を徴収しています。GGNは2004年に設立され、ユネスコ世界ジオパークのすべての産品と実践の品質基準を高めるために、メンバーが共に協力し合い、ベストな実践のアイデアを交換し、共通のプロジェクトに参加する活発なネットワークです。GGNは２年ごとに集まると同時に、共同活動を開発し進めるために１年に２回集まるヨーロッパジオパークネットワークのような地域ネットワークの運営によっても機能しています。



コラム

国境を越えた ユネスコ世界ジオパーク

河川、山脈、海洋、砂漠等の地学的な境界は、多くの場合人間が引いた境界線に沿っていません。ユネスコ世界ジオパークも人間が作った国境に必ずしも従うわけではありません。したがって、いくつかのユネスコ世界ジオパークは自然に国境を越え、異なった国の人々を結び、国境を越えた親密な地域間の協力を促進させています。国の壁を乗り越えた力強い協力を通じて、国境を越えたユネスコ世界ジオパークは国家間の関係を強化し、平和を築くための取り組みに貢献しています。2008年、北アイルランドから国境を越えてアイルランドに拡大したマーブルアーチ洞窟ユネスコ世界ジオパークは、世界初の国境を越えた世界ジオパークになりました。かつての紛争地域に位置しているこのユネスコ世界ジオパークは、現在、平和を築き地域をまとめる世界的モデルとみなされています。ユネスコは、特にユネスコ世界ジオパークが未だに存在しない地域において、国境を越えた世界ジオパークの創設を積極的に支援しています。

- マーブルアーチ洞窟ユネスコ世界ジオパーク（アイルランドおよび英国）
- ノヴォフラド ー ノーグラード ユネスコ世界ジオパーク（ハンガリーおよびスロバキア）
- ムスカウアーチ ユネスコ世界ジオパーク（ドイツおよびポーランド）
- カラワンケン／カラヴァンケ ユネスコ世界ジオパーク（オーストリアおよびスロベニア）



トップ１０トピックス





ユネスコ世界ジオパークが扱う

- 天然資源
- 地質災害
- 気候変動
- 教育
- 科学
- 文化
- 女性
- 持続可能な開発
- 地域および先住民の知識
- 地質遺産の保全

天然資源

人類の誕生以来地球の固体地殻からとれる天然資源は、私たちの社会および経済発展の基礎となっています。これらの資源には、鉱物、炭化水素、希土類元素（レアアース）、地熱、空気、水が含まれ、それらの持続可能な利用は将来に渡っての社会の安寧に不可欠です。地球上で発見できる元素は、地質や地質プロセスに起源を持ち、再生不可能であり、賢く利用しなければなりません。ユネスコ世界ジオパークは、環境や景観との調和への敬意を促進すると同時に、天然資源が周囲の環境から採掘され、採石され、または利用されているかどうか、その持続可能な利用と必要性を人々に伝えています。

地質災害

多くのユネスコ世界ジオパークは、火山、地震、津波などの地質災害に対する意識を高め、地域のコミュニティ間での防災・減災対策に役立っています。地域住民やビジターへの教育活動を通じて、ユネスコ世界ジオパークは地質災害の原因や災害対策を含む被害の軽減方法について情報提供をします。これらの取り組みによって地域の対応力を高め、潜在的な地質災害に対して効果的な対応を取るための知識や技術を持つ、柔軟な復旧力のある地域社会の形成に貢献します。

気候変動

ユネスコ世界ジオパークには過去の気候変動の記録があり、それは現在進行する気候変動について教えてくれます。再生可能エネルギーを活用する最善の取り組みや、最高水準の「グリーンツーリズム」の実施方法についても教えてくれます。ユネスコ世界ジオパークの中には、革新的なプロジェクトを通じて地域の経済的成長を実現しながら環境に優しい生活を続ける環境配慮型の成長を推進する地域があります。その一方、現代の気候変動の影響を知るための野外博物館として、気候変動はどのように私達をとりまく環境に影響しているのか見学者に示す機会を与えている地域もあります。このような地域での活動、教育活動と教育プロジェクトは、気候変動が地域に及ぼす潜在的影響についての意識を高めるとともに、気候変動によって受ける被害を軽減し適応する知識を地域社会に提供するために重要です。

教育

私たちの地質遺産とそれに関連する自然、文化、無形遺産とのつながりに対する意識を広げるため、全てのユネスコ世界ジオパークであらゆる年代を対象とした教育活動を開発、実施することを前提としています。ユネスコ世界ジオパークは学校向けの教育プログラムを提供したり、「キッズクラブ」や特別な「化石を楽しむ日」などを通じて子供向けの特別活動を行ったりしています。また、形式にとらわれない様々な形で大人や退職者を対象に学習の機会を提供し、研修を受けた人が今度は他の人を教えています。

科学

ユネスコ世界ジオパークは、地質遺産やジオ多様性が国際的重要性をもつ特別なエリアです。ユネスコ世界ジオパークは、地球とその成り立ちについての知識を深めるために地球科学やその他の分野で活発な科学研究に取り組むよう、学術機関と協力することが奨励されています。ユネスコ世界ジオパークは博物館ではなく、活動的な実験室です。そこでは、最高水準の学術研究から好奇心旺盛なビジターレベルまで、多様な人々が科学に関わることができます。ユネスコ世界ジオパークは、一般の人々を科学から疎外しないために大変な注意を払わなければならず、情報ボード、看板、小冊子、地図、一般向けの本に、専門用語を使用することは絶対に避けなければなりません。

文化

ユネスコ世界ジオパークのモットーは、「地球遺産をたたえ、持続可能な地域社会をつくろう」です。 ユネスコ世界ジオパークは、基本的に人々に関することであり、私たちのコミュニティと地球のつながりを探求し、たたえることです。地球は私たちを形作っています。それは私たちの農業実践、家を建てるために使う建築材料や建築方法、さらには神話、民話、民俗の伝統などを形作っています。ユネスコ世界ジオパークは、これらのつながりをたたえるためにさまざまな活動を行っています。多くのユネスコ世界ジオパークは、芸術のコミュニティへの強いつながりを持っており、そこでは科学と芸術を結びつけることにより相乗効果を生み出し、それは驚くべき成果をもたらしています。

女性

ユネスコ世界ジオパークは、女性に焦点を当てた教育プログラムあるいは女性協同組合などの発展を通じて、女性の社会的地位向上を重要視しています。ユネスコ世界ジオパークは、地元の小規模産業および工芸品の開発、育成、促進のためのプラットフォームです。いくつかのユネスコ世界ジオパークでは、女性協同組合もまた、女性が自分の地域で自分のやり方で追加収入を得る機会を提供しています。たとえば、観光客に宿泊サービスを提供することがあげられます。

持続可能な開発

たとえそのエリアが非常に優れた、世界的に傑出した価値のある世界的に有名な地質遺産を有していたとしても、そこに住む人々の持続可能な発展のための計画がない限り、そこはユネスコ世界ジオパークになることはできません。これは、例えば遊歩道やサイクリングロードを開発すること、ガイドとして行動できるように地元の人々を研修すること、観光や宿泊施設の提供者に環境の持続可能性に関する国際的に最良な実践を奨励することなどを通じて、持続可能な観光の形をとることもあります。しかし、それは地元の人々と協働し、地元の人々を力づけ、地元の人々の人権と尊厳を尊重することで、彼らの伝統的な生活様式を尊重することでもあります。ユネスコ世界ジオパークが地元の人々の支持がない限り、成功しません。ユネスコ世界ジオパークの地位は、その活動が地域固有の、地方、地域および/または国内の法に準拠しているユネスコ世界ジオパーク内のいかなる経済活動をも制限するものではありません。



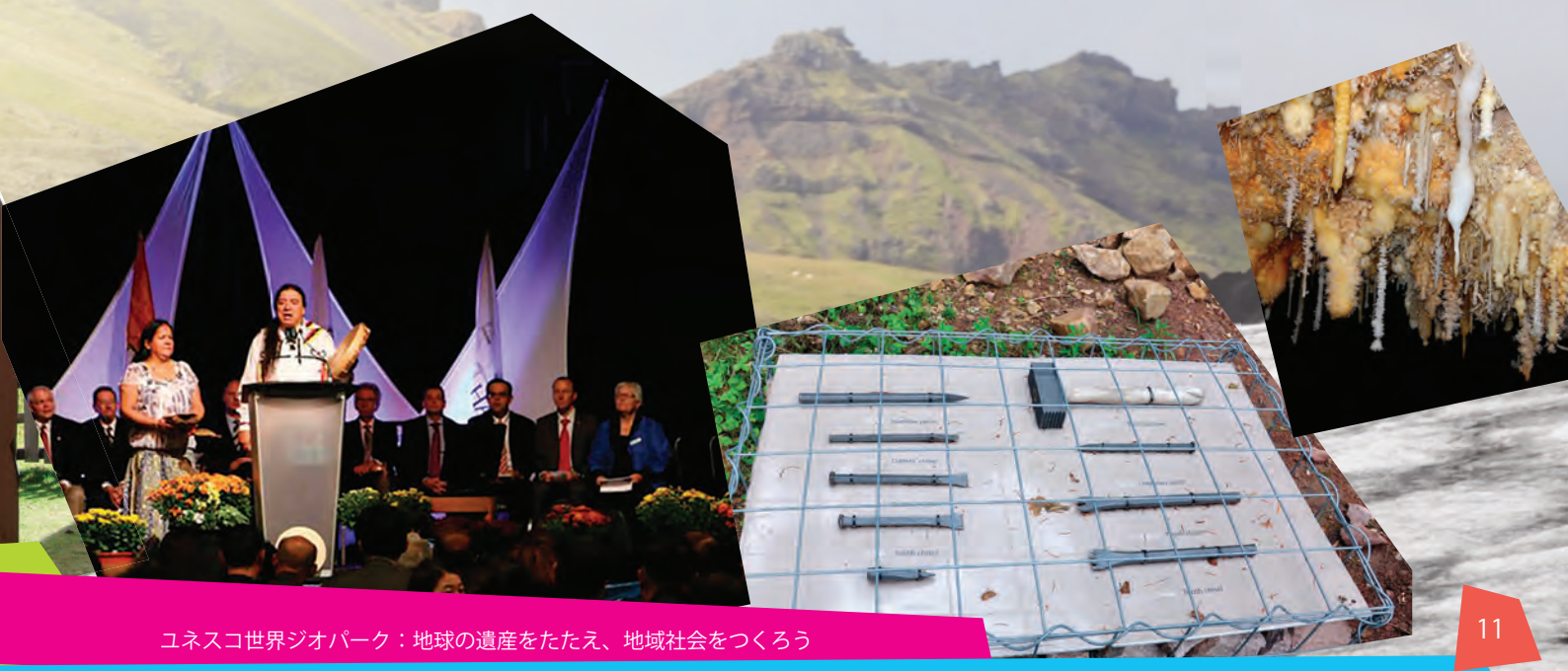
地域および先住民の知識

ユネスコ世界ジオパークは、地元の人々や先住民の文化を保存し、たたえながら、彼らを積極的に参画させます。地元や先住民のコミュニティを巻き込むことで、ユネスコ世界ジオパークは、これらのコミュニティや彼らの文化、コミュニティとその土地とのつながりの重要性を認めます。科学と並行しながら、地元の人々および先住民の知識、慣習、管理運営制度がその地域の計画および管理運営に含まれていることは、ユネスコ世界ジオパークの基準の一つです。

地質遺産の保全

ユネスコ世界ジオパークは、持続可能性の概念を用いて、母なる地球の遺産を評価し、それを保護する必要性を認識するエリアです。ユネスコ世界ジオパークで定義されたジオサイトは、地元、地方、地域および/または国の法および管理当局によって、適切な機関と協働して保護されており、これらのサイトの必要なモニタリングおよび維持が可能となっています。各サイトの適切な保護手段は、個々のサイト管理運営計画に設定されています。ユネスコ世界ジオパークの管理運営団体は、いわゆる「岩石ショップ」でよく見られる化石、鉱物、研磨した石、装飾用岩石など、地質物品の地域内での販売に直接関わらないばかりか、全体として地質物品の非持続可能な流通を積極的にやめさせます。採石や採鉱によって起源が明らかになっている資材や、国内もしくは国際的な法令の規制に従っているものについて、通常の工業利用や一般家庭での使用についてはこの限りではありません。

特定の状況下で、責任のある活動としてはっきり説明できる場合、管理運営団体はユネスコ世界ジオパーク内の再生可能なサイトから科学および教育目的で地質試料の持続可能な採集を許可できる場合があります。このようなシステムに基づく地質試料の取引（地球遺産保全に関する国内法に従って）は、地域の実情を考慮した際にそのユネスコ世界ジオパークにとって最良の選択肢として、明瞭にまた公に説明され、根拠づけがされ、監視される例外的状況では認められることもあります。このような状況はケースバイケースで議論と承認を受けることになります。



コラム

エリア拡大

ユネスコ世界ジオパークでは、以下の手順に従って
エリアを拡大することができます。

– ユネスコ世界ジオパークが、エリアの10%未満の拡大を希望し、
新たに提案されたエリアが国境を越えない場合。

ユネスコ世界ジオパークは公式ルートを介して。拡大の理由と新しいエリアがユネスコ世界ジオパークの基準をなお満たしていることを示す書簡を提出する必要があります。ユネスコ世界ジオパーク・カウンシルは、変更を承認するかどうかを決定します。

– ユネスコ世界ジオパークが、エリアの10%以上の拡大を希望し、
そして/あるいは新たに提案されたエリアが、新たに国境をまたぐ場合。

ユネスコ世界ジオパークは、ユネスコ世界ジオパーク申請地域と同じ手続きに従い、新たに申請書を提出する必要があります。



申請手続き

ユネスコ世界ジオパーク申請地域は、既存のユネスコ世界ジオパークおよび（もし当該国に存在している場合）国内のジオパーク委員会と接触し、情報を収集することを強く推奨します。

ユネスコ世界ジオパーク申請地域は、公式なルートを通じて意思表明書類を提出します*。

10月1日～11月30日
申請地域は、公式なルートを通じて申請書類を提出します**（14～15ページ参照）

1月～3月
ユネスコ加盟諸国はその監督責任の下、政府間で申請内容を確認します。

12月1日以降
ユネスコ事務局は、申請書類が完全かどうかを確認します。完全で体裁が整えられていれば、ユネスコ事務局はそれを次のプロセスへまわします。

科学専門チームによる申請地域のジオサイトの国際的価値についての書類審査

5月1日～8月15日
2名までの審査員による現地審査、およびその審査報告書の作成

9月
ユネスコ世界ジオパーク・カウンシルは、申請書、地質遺産の書類評価、現地審査報告書を検討し、以下のいずれかを勧告します。

申請の受け入れを勧告

ユネスコ世界ジオパークビューローはユネスコ事務局長に対して、ユネスコ執行委員会の議事に議題を含むよう勧告します。

春のユネスコ執行委員会
申請の承認の可否について決議します

執行委員会が申請を承認すると、申請エリアはユネスコ世界ジオパークに認定されます。

ユネスコ世界ジオパークは、GGNの一員となるにあたって、会員地域として義務と役割を果たす宣誓書を提出しなければなりません。

申請を保留し、改善のため最長2年間の審査期間の延期

申請者は、延期期間中に行われた改善を説明した報告書を作成します。

ユネスコ世界ジオパークカウンシルは、延期された申請を審査し…

…申請の承認を勧告する

…申請を却下することを勧告する

申請の却下を勧告

ユネスコ世界ジオパーク認定のためには、申請者は再度申請する必要があります。

* 理想的には、この書簡は申請年の7月1日までに送達されている必要があります。

** ユネスコ国内委員会あるいはユネスコ担当の政府機関からユネスコ事務所へ提出します。既存のジオパーク国内委員会がある場合はそちらも含めます。

コラム

申請書類

電子ファイルの体裁：Eメールで最大5MB、ファイル転送サービス（Dropbox、WeTransferなど）で最大50MBまで。印刷体の申請書は送らない。

受付期間：申請書は毎年10月1日から11月30日の間のみ受け付けます。

全てのユネスコ世界ジオパーク申請地域は、あらゆる公式な申請の前に、当該国におけるユネスコ国内委員会またはユネスコ担当の関連政府機関によって定められた公式ルートを通じて、存在する場合はジオパーク国内委員会も含めて、意思表明書を提出しなければなりません。

必要な情報が網羅され、入念に体裁が整えられた申請書類が完成した時点で、同じく公式なルートを通じて提出しなければなりません。

申請書では、強みととそうでない箇所を強調しつつも、以下で述べる様式と項目を備えてなければなりません。この申請書は独立した専門家グループによるユネスコ世界ジオパーク地域の取り組みの机上審査の際に検討されます。その項目の内容から、申請地域がジオパークとして既に機能しており、ユネスコ世界ジオパークになるための基準を満たしているかどうか、現地審査任務を行うに足るかどうかが明らかになります。申請に不備がなく現地審査の準備が整ったとみなされた時点で、ユネスコ世界ジオパーク・カウンシルは申請地域の現地審査任務を承認します。申請書では、その地域が少なくとも１年は事実上の世界ジオパークとして既に機能してきたことを示されなければなりません。あらゆる冊子体、出版物やパンフレット等は送付しないでいください。これらは、現地審査の際、審査員にのみ提供してください。

A – 申請エリアについて

1．申請するジオパークの名称
2．申請するジオパークの位置（地図および、経度・緯度の地理座標を含める）
3．申請するジオパークの面積、自然地理・人文地理的特徴
4．申請するジオパークの担当組織と管理運営構造（説明、機能、組織図）
5．申請の連絡者（氏名、役職、電話／ファックス番号、およびメールアドレス）

B – 地質遺産

1．申請するジオパークの地質概要
2．申請するジオパーク内のジオサイトのリストと説明
3．これらのサイトの国際的、国内的、地域的または局所的価値（例えば、科学的、教育的、美的）の観点からの詳細な説明
4．他の自然遺産、文化遺産、無形遺産のリストとその説明、ジオサイトとどのように関連しているのか、また申請するジオパークにどのように統合されているのかの説明

C – 地質遺産の保全

1．申請するジオパークへの現在または潜在的な障害
2．申請するジオパーク内のジオサイトの保全の現状
3．全ての種類の遺産サイトの管理運営および維持に関するデータ（ジオサイトおよび非ジオサイト）

D – 経済活動と事業計画（詳細な財務情報を含む）

1．申請するジオパークにおける経済活動
2．申請するジオパークの既存および計画中の施設（ジオ教育、ジオツーリズム、観光インフラストラクチャなど）
3．申請するジオパークのジオツーリズムの可能性分析
4．持続可能な開発のための概要と方針：
- ジオツーリズムと経済
- ジオ教育
- ジオ遺産

これらの項目における活動を説明する具体例を含めてください。
5．申請するジオパークにおける地域社会の自己強化（参画と協議）の方針とその例
6．申請するジオパークにおける公衆および利害関係者の関心を高めるための方針とその例

E – ユネスコ世界ジオパークになるための関心と議論

添付資料

添付資料１： 自己評価表（ユネスコのウェブサイトで入手可能）

添付資料２： 申請書Ｂ項「地質遺産」のコピー1部。巻頭に150ワード（単語）以内の地質概要を添付。（これは、IUGS―国際地質科学連合―の審査員による地質に関する机上審査にのみ使用されます）

添付資料３： 関係する地方自治体および地域当局の明確な承認、ならびにユネスコ国内委員会またはユネスコ担当の政府機関からの支持表明書

添付資料４： 申請するユネスコ世界ジオパークの境界を明確に示し、すべての地質サイト、博物館、町や村、その他の文化遺産および自然遺産サイト、ビジターセンターやインフォメーションセンターを含む観光施設、訪問者用宿泊施設、レクリエーション施設、公共交通機関を示した、申請ユネスコ世界ジオパークの大縮尺地図
地図は、五万分の一縮尺が理想的ですが、国がその縮尺で地図を作っていない場合は、最も近い大縮尺地図で構いません。

添付資料５： 1ページの地質および地理要約を含めた、位置を示す詳細な地図（ひな形はユネスコのウェブサイトで入手可能）



ユネスコ世界ジオパークは、地質的関心という点からだけでなく、それを維持するために熱心に働く地域の優れた人の熱意と献身と、彼らが提供する教育的かつ経済的機会を最大限に生かすための世界の宝物です。ユネスコ世界ジオパークは、私たちの地球の中でいくぶん遠くも美しい場所にある、非常に効果的に機能する地域社会の素晴らしい実例です。

英国ユネスコ国内委員会 自然科学部長
ベス・テイラー博士



詳細については、下記までご連絡ください。

UNESCO Global Geoparks
Division of Ecological and Earth Sciences
UNESCO
7, place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP
France

unesco.org/new/en/natural-sciences/environment/earth-sciences/

表紙：左から右、上から下

	写真タイトル	©
表紙	1 種子植物のシダの化石　カルニッシュアルプスユネスコ世界ジオパーク、オーストリア	ゲルリンデ・オルテネ
	2 テーチス海の塩　シエラススペティカスユネスコ世界ジオパーク、スペイン	フンタ・デ・アンダルシアの環境省 アリシア・セルナ・バルキェロ
	3 三世代　ドンバン・カルスト台地ユネスコ世界ジオパーク、ベトナム	パトリック・マッキーバー
裏表紙	1 登山者　タンブラーリッジユネスコ世界ジオパークの登山者、カナダ	ケビン・シャーマン
	2 メソトポス女性協同組合　レスボス島ユネスコ世界ジオパーク、ギリシア	レスボス石化林自然史博物館
	3 地底ボートトリップ　マーブルアーチ洞窟ユネスコ世界ジオパーク、アイルランド＆イギリス	パトリック・マッキーバー
	4 ジオパークと芸術　パレスケーブユネスコ世界ジオパーク、ウルグアイ	パトリック・マッキーバー
	5 石の物語を語り伝える子供たち　ギアノルベジカユネスコ世界ジオパーク、ノルウエー	ギアノルベジカ・ユネスコ世界ジオパーク／ジェニー・ドルビン
	6 デボン紀の魚の化石の観察　シェットランドユネスコ世界ジオパーク、イギリス	ビリー・フォックス・フォトグラフィー
	7 伝統とシンボル　アラリペユネスコ世界ジオパーク、ブラジル	パトリック・マッキーバー

中面：左から右、上から下

ページ	写真タイトル	©
2	1　パナキュラー建物　張家界ユネスコ世界ジオパーク、中国	張家界ユネスコ世界ジオパーク
	2　野外授業　マーブルアーチ洞窟ユネスコ世界ジオパーク、アイルランド＆英国	マーブルアーチ洞窟ユネスコ世界ジオパーク
	3　ジオパークと芸術　四川省自貢恐竜ユネスコ世界ジオパーク、中国	パトリック・マッキーバー
3	1　パナキュラー建築　アロウカユネスコ世界ジオパーク、ポルトガル	アロウカジオパーク協会
4	1　防災教育　洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク、日本	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
	2　ファンディートレイルから見る大西洋の誕生　ストーンハンマーユネスコ世界ジオパーク、カナダ	ストーンハンマーユネスコ世界ジオパーク
	3　マシフデボージュユネスコ世界ジオパーク、フランス	パトリック・マッキーバー
	4　ジオクッキー　ランカウイユネスコ世界ジオパーク、マレーシア	マーガレット・パツァック
6	1　ボート乗船　ストーンハンマーユネスコ世界ジオパーク、カナダ	パトリック・マッキーバー
7	1　大西洋の海岸の古い石灰岩の歩道　バレン・モハー断崖ユネスコ世界ジオパーク、アイルランド	バレン・モハー断崖ユネスコ世界ジオパーク/ロナン・ヘネシー
8	1　完全な状態の白亜紀前期の化石　アラリペユネスコ世界ジオパーク、ブラジル	アラリペユネスコ世界ジオパーク
	2　ファランユクル　レイキャネスユネスコ世界ジオパーク、アイスランド	レイキャネスユネスコ世界ジオパーク、オルガー・アンドレソン
	3　家屋を覆う火山噴出物　島原半島ユネスコ世界ジオパーク、日本	パトリック・マッキーバー
10+11	1　カトラユネスコ世界ジオパーク、アイスランド（背景写真）	パトリック・マッキーバー
	2　ジュラ紀のアンモナイトの現場での保護活動　オートプロヴァンスユネスコ世界ジオパーク、フランス	AGRGHP
	3　ジオ教育　アゾレス諸島ユネスコ世界ジオパーク、ポルトガル	パトリック・マッキーバー
	4　歴史と芸術　北ペナインAONBユネスコ世界ジオパーク、イギリス	マーガレット・パツァック
	5　世界ジオパーク会議におけるファースト・ネーションのミクマク族　ストーンハンマーユネスコ世界ジオパーク、カナダ	ストーンハンマーユネスコ世界ジオパーク
	6　石を割り、形削りし、整形する工具　ボヘミアパラダイスユネスコ世界ジオパーク、チェコ共和国	パトリック・マッキーバー
	7　コルシア洞窟のアラゴナイト鍾乳石　アブアンアルプスユネスコ世界ジオパーク、イタリア	アブアンアルプスユネスコ世界ジオパーク、ステファノ・プッチ
12	1　ワークショップ　ランカウイユネスコ世界ジオパーク、マレーシア	マーガレット・パツァック
15	1　ジオパークアンバサダー　済州島ユネスコ世界ジオパーク、韓国	パトリック・マッキーバー
	2　秦嶺山脈のゴールデンモンキー　秦嶺終南山ユネスコ世界ジオパーク、中国	秦嶺終南山ユネスコ世界ジオパーク、リウ・リグゥオ
	3　ノボラッド、ソモスコの屈曲した柱状節理　ノーグラードユネスコ世界ジオパーク、ハンガリー＆スロバキア	非営利団体ノーグラードユネスコ世界ジオパーク

